بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

イスラームの英雄

第 13 巻

カアカーア・ブン・アムル

カーディスィーヤの騎士にして和平の使者 — クルアーン、真正なハディース、歴史書に基づいて

وَأَعِدُّواْ لَهُم مَّا ٱسۡتَطَعۡتُم مِّن قُوَّةٖ وَمِن رِّبَاطِ ٱلۡخَيۡلِ تُرۡهِبُونَ بِهِۦ عَدُوَّ ٱللَّهِ وَعَدُوَّكُمۡ وَءَاخَرِينَ مِن دُونِهِمۡ لَا تَعۡلَمُونَهُمُ ٱللَّهُ يَعۡلَمُهُمۡۚ وَمَا تُنفِقُواْ مِن شَيۡءٖ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ يُوَفَّ إِلَيۡكُمۡ وَأَنتُمۡ لَا تُظۡلَمُونَ ٦٠

「かれらに対して，あなたの出来る限りの（武）力と，多くの繋いだ馬を備えなさい。それによってアッラーの敵，あなたがたの敵に恐怖を与えなさい。かれら以外の者にも，またあなたがたは知らないがアッラーが知っておられる者にも。あなたがたが，アッラーの道のために費やす凡てのものは，十分に返済され，あなたがたは不当に扱われることはないのである。」

戦利品章 8:60

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | facebook.com/QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

quranscience.my で無料のデジタル版を読むには、こちらをスキャンしてください

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の本。販売はできません。

謝辞

信者たちに、できる限りの力を備え、兄弟たちの間を和解させるよう命じられたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たち、そして彼らに善く従った後継世代（タービウーン）、とりわけカーディスィーヤの騎士カアカーア・ブン・アムル رضى الله عنه に祝福と平安あれ。

この本を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『イスラームの英雄』第 13 巻は、カアカーア・ブン・アムル رضى الله عنه の生涯を語ります。ハーリド・ブン・アル＝ワリードへの援軍としてただ一人で送られたタミーム族の英雄、カーディスィーヤの日々の勇者、そしてラクダの戦いの前の和平の使者です。読者が真正なハディースと歴史上の伝承とを見分けられるよう、その典拠について正直に語っています。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間や動物は描かれていません。描かれているのは夜明けのイラク、*ユーフラテス川のほとりに広がる平原*で、川岸にはナツメヤシの木々が立っています。

曲がりくねった道に沿って、地平線から*砂ぼこりの柱*が次々と立ちのぼっています。これはカーディスィーヤのアグワースの日のカアカーアの策略を表しています。千人の騎兵が十人ずつの組で次々と到着したため、敵は終わりのない大援軍が来ていると思い込んだのです。

手前の岩の上には*鉄の兜と鞘に収めた剣*が置かれています。ムジャーヒドの備えの象徴であり、アッラーは「かれらに対し、あなたがたの力の及ぶ限り武力を備え」（戦利品章 8:60）と言われています。鞘に収めた剣は、カアカーアがかつて戦いではなく和平のために遣わされたことも思い起こさせます。

下部の*濃紺の帯*は*細い金色の線*で縁取られ、著者名が記されています。『イスラームの英雄』のすべての表紙をそろえるため、第 1 巻から第 12 巻と同じデザインです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

カアカーア・ブン・アムル 6
1. カアカーア・ブン・アムルとは誰か 7
2. 教友か、後継世代か – 典拠についての誠実さ 8
3. アッラーの使徒ﷺの言葉に見るタミーム族 10
4. 「このような男がいる軍は敗れない」 13
5. イラクの地でハーリドとともに 16
6. 砂漠を越えてヤルムークへ 17
7. ダマスカスの城壁を登る 20
8. イラクへの帰還 – 十人ずつの組で来た千騎 21
9. アグワースの日 – 橋の戦いの雪辱 23
10. 覆面のラクダと白い象 24
11. ハリールの夜とカーディスィーヤの勝利 25
12. 私たちは何のために戦うのか 27
13. マダーイン、ジャルーラー、フルワーン 28
14. ナハーワンド – 見せかけの退却 29
15. ラクダの戦いの前の和平の使者 30
16. クーファでの晩年 33
17. カアカーアの人柄と資質 35
18. カアカーアの物語の典拠 36
19. カアカーアの物語に登場する人物 38
20. カアカーアの物語に登場する場所 39
21. カアカーアの生涯の年表 40
22. カアカーアについてのよくある質問 41
23. 教訓と結び 43
参考文献 44
支援と寄付 45

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。

カアカーア・ブン・アムル

歴史書によれば、カリフのアブー・バクル・アッ＝スィッディークはタミーム族のある英雄についてこう言ったと伝えられます。*「このような男がいる軍は敗れない。」* その英雄こそ、イラクとシャームの征服のほぼすべての大きな戦いにその名が現れる騎士、*カアカーア・ブン・アムル・アッ＝タミーミー* رضي الله عنه です。

彼はイラクでハーリド・ブン・アル＝ワリードとともに戦い、砂漠を越えてシャームへ渡り*ヤルムーク*で戦いました。その後イラクに戻り、*カーディスィーヤ*の日々の勇者となりました。さらにマダーイン、ジャルーラー、ナハーワンドの征服にも加わりました。内紛（フィトナ）の時代には、ラクダの戦いの前にムスリムを和解させるため、アリー・ブン・アビー・ターリブによって遣わされました。

この電子書籍は『*イスラームの英雄*』シリーズの第 13 巻です。カアカーアの物語はこれまでの巻とは異なります。彼に関する伝えのほとんどすべてが、ハディース学者によって弱いと評価された*サイフ・ブン・ウマル*という歴史の伝承者を通して私たちに届いているのです。そのため本書では、すべての話の典拠と評価を正直に示し、教訓はクルアーンと真正なハディースに基づかせています。

カアカーアの物語は、知恵に導かれた勇気の物語です。彼は戦場で恐れを知らなかっただけでなく、作戦を練ることにも長けていました。そして、ムスリム同士が対立したときには和平の道を探す賢明さも備えていたのです。

カアカーア・ブン・アムルとは誰か

彼の正式な名は*カアカーア・ブン・アムル・ブン・マーリク・アッ＝タミーミー*で、アラビア半島ナジュドの大部族*タミーム族*の出身です。タバリーは『諸使徒と諸王の歴史』で彼の系譜を詳しく記しています。兄弟の*アースィム・ブン・アムル*も、イラクで彼とともに戦った指揮官でした。

歴史書は彼を、きわめて勇敢な騎士であり、騎兵隊の指導者であり、また詩人でもあったと描いています。彼に帰される多くの詩が、彼が加わった戦いを物語っています。

名前と称号

名前・称号	説明
カアカーア・ブン・アムル	本名
アッ＝タミーミー	タミーム族の出身
アースィム・ブン・アムル	兄弟。イラクの指揮官でもあった
カーディスィーヤの騎士	アグワースとイマースの日の英雄（ヒジュラ暦 15 年）
詩人	多くの戦いの詩が彼に帰される

教訓

アッラーはどの部族からでも、お望みの者を高められます。人の勇気と才能は、アッラーの御言葉を高めるために用いられるとき、尊いものとなります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教友か、後継世代か – 典拠についての誠実さ

カアカーアの英雄譚を語る前に、私たちは典拠について正直でなければなりません。学者たちは、彼がアッラーの使徒 ﷺ の教友（サハービー）だったのか、それとも後継世代（タービイー）だったのかについて意見を異にしています。

典拠の注：「私はアッラーの使徒 ﷺ の逝去に立ち会った」

カアカーアが「私はアッラーの使徒 ﷺ の逝去に立ち会った」と言ったと伝えられています。また、アッラーの使徒 ﷺ が彼に ***「ジハードのために何を備えたか」*** と尋ね、彼が「アッラーとその使徒への服従、そして馬です」と答えると、預言者が「それこそが究極である」と言われたとも伝えられます。

この二つの伝承はどちらも ***サイフ・ブン・ウマル*** を経由しています。イブン・アビー・ハーティムは、サイフのハディースは捨てられているとして「ゆえにこのハディースは無効である。知られるためにのみ記録した」と述べました。イブン・アブドゥルバッルは、ハディースの学者たちによれば、カアカーアと兄弟アースィムには、アッラーの使徒 ﷺ との交わりも、面会も、伝承も真正には確認されないと述べています。イブン・ハジャルは彼の名を『教友識別の書（アル＝イサーバ）』に挙げ、サイフを「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評しました。

伝承の評価： 弱い（ダイーフ）。より有力な結論は、アッラーの使徒 ﷺ との交わりは真正な伝承経路で確認されず、彼は ***大後継世代（タービウーン）*** の一人に数えられるというものです。本書で用いる رضي الله عنه は、学者たちの慣習に従い、初期世代のムジャーヒドのためにアッラーの御満悦を願う祈りの言葉です。

参照：

イブン・アビー・ハーティム『批判と信頼』；イブン・アブドゥルバッル『アル＝イスティーアーブ』；イブン・カーニウ『教友事典』；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』『タクリーブ・アッ＝タフズィーブ』。

馬についてのハディースは弱いものの、その意味は真正なハディースによって裏付けられています。

ハディース — サヒーフ・ブハーリー、No. 2852

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا زَكَرِيَّاءُ، عَنْ عَامِرٍ، حَدَّثَنَا عُرْوَةُ الْبَارِقِيُّ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ " الْخَيْلُ مَعْقُودٌ فِي نَوَاصِيهَا الْخَيْرُ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ الأَجْرُ وَالْمَغْنَمُ ".

訳：

ウルワ・アル＝バーリキーは、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えた。*「馬の前髪には、審判の日まで善が結びつけられている。それは報奨と戦利品である。」*

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム・アル＝ファドル・ブン・ドゥカイン ← ザカリーヤー・ブン・アビー・ザーイダ ← アーミル・アッ＝シャアビー ← ウルワ・アル＝バーリキー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、ハディース番号 2852。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:2852

教訓

確認されていないことをアッラーの使徒 ﷺ に帰してはなりません。歴史の話は歴史として語ることができますが、法規定と信条はクルアーンと真正なハディースからのみ取られます。

アッラーの使徒ﷺの言葉に見るタミーム族

カアカーアの部族であるタミーム族は、アラブの諸部族がイスラームへの入信を表明するためにマディーナへやって来た*使節団の年*（ヒジュラ暦9年）にイスラームに

入りました。アブー・フライラは、この部族についてのアッラーの使徒 ﷺ の三つの言葉を伝えています。

ハディース — サヒーフ・ブハーリー、No. 2543

حَدَّثَنَا زُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا جَرِيرٌ، عَنْ عُمَارَةَ بْنِ الْقَعْقَاعِ، عَنْ أَبِي زُرْعَةَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لاَ أَزَالُ أُحِبُّ بَنِي تَمِيمٍ. وَحَدَّثَنِي ابْنُ سَلاَمٍ أَخْبَرَنَا جَرِيرُ بْنُ عَبْدِ الْحَمِيدِ عَنِ الْمُغِيرَةِ عَنِ الْحَارِثِ عَنْ أَبِي زُرْعَةَ عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ. وَعَنْ عُمَارَةَ عَنْ أَبِي زُرْعَةَ عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ قَالَ مَا زِلْتُ أُحِبُّ بَنِي تَمِيمٍ مُنْذُ ثَلاَثٍ سَمِعْتُ مِنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ فِيهِمْ، سَمِعْتُهُ يَقُولُ " هُمْ أَشَدُّ أُمَّتِي عَلَى الدَّجَّالِ ". قَالَ وَجَاءَتْ صَدَقَاتُهُمْ، فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم " هَذِهِ صَدَقَاتُ قَوْمِنَا ". وَكَانَتْ سَبِيَّةٌ مِنْهُمْ عِنْدَ عَائِشَةَ. فَقَالَ " أَعْتِقِيهَا فَإِنَّهَا مِنْ وَلَدِ إِسْمَاعِيلَ ".

訳：

アブー・フライラは言った。アッラーの使徒 ﷺ が彼らについて言われた三つのことを聞いて以来、私はずっとタミーム族を愛している。私は彼がこう言われるのを聞いた。*「彼らは私のウンマの中で、ダッジャール（偽救世主）に対して最も手強い者たちである。」* 彼らのザカートが届いたとき、アッラーの使徒 ﷺ は *「これは私たちの民のザカートである」* と言われた。またアーイシャのもとに彼らの中から捕虜の女性がいたとき、彼は「彼女を解放しなさい。彼女はイスマーイールの子孫なのだから」と言われた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ズハイル・ブン・ハルブ ← ジャリール・ブン・アブドゥルハミード ← ウマーラ・ブン・アル＝カアカーア ← アブー・ズルア ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』奴隷解放の書、ハディース番号 2543。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:2543

このハディースの伝承経路にいるウマーラ・ブン・アル＝カアカーアは別の後継世代の人物であり、本書の英雄の息子ではありません。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、ある民にある善を称えられました。預言者が述べたタミーム族の堅固さは、ジハードの場における彼らの英雄たちに現れました。

「このような男がいる軍は敗れない」

ヤマーマの戦い（ヒジュラ暦 12 年）の後、カリフのアブー・バクルはハーリド・ブン・アル＝ワリードにイラクへ進軍するよう命じました。ハーリドの兵士の多くが故郷へ帰ってしまったため、ハーリドはマディーナに援軍を求めました。

歴史の注：たった一人の援軍

アブー・バクルはハーリドのもとに、ただ一人の男、カアカーア・ブン・アムルだけを送ったと伝えられます。人々は「軍に去られた指揮官を、たった一人の男で助けるのですか」と言いました。アブー・バクルは答えました。***「このような男がいる軍は敗れない。」*** またアブー・バクルは ***「軍の中のカアカーアの声は、千人の男にまさる」*** と言ったとも伝えられます。

伝承の評価： 伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した ***サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー*** を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』；ミスカワイフ『諸民族の経験』；イブン・アル＝アスィール『ウスド・アル＝ガーバ』；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』。

ムジャーヒドの備えとは、単なる数ではなく、力と真剣さです。アッラーはこう言われます。

戦利品章 8:60

وَأَعِدُّواْ لَهُم مَّا ٱسۡتَطَعۡتُم مِّن قُوَّةٖ وَمِن رِّبَاطِ ٱلۡخَيۡلِ تُرۡهِبُونَ بِهِۦ عَدُوَّ ٱللَّهِ وَعَدُوَّكُمۡ وَءَاخَرِينَ مِن دُونِهِمۡ لَا تَعۡلَمُونَهُمُ ٱللَّهُ يَعۡلَمُهُمۡۚ وَمَا تُنفِقُواْ مِن شَيۡءٖ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ يُوَفَّ إِلَيۡكُمۡ وَأَنتُمۡ لَا تُظۡلَمُونَ ٦٠

かれらに対して，あなたの出来る限りの（武）力と，多くの繋いだ馬を備えなさい。それによってアッラーの敵，あなたがたの敵に恐怖を与えなさい。かれら以外の者にも，またあなたがたは知らないがアッラーが知っておられる者にも。あなたがたが，アッラーの道のために費やす凡てのものは，十分に返済され，あなたがたは不当に扱われることはないのである。

訳：三田了一 — quran.com/8:60

アッラーの使徒 ﷺ は、ミンバル（説教壇）の上でこの節を説明されました。

ハディース — サヒーフ・ムスリム、No. 1917

حَدَّثَنَا هَارُونُ بْنُ مَعْرُوفٍ، أَخْبَرَنَا ابْنُ وَهْبٍ، أَخْبَرَنِي عَمْرُو بْنُ الْحَارِثِ، عَنْ أَبِي عَلِيٍّ، ثُمَامَةَ بْنِ شُفَيٍّ أَنَّهُ سَمِعَ عُقْبَةَ بْنَ عَامِرٍ، يَقُولُ سَمِعْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَهُوَ عَلَى الْمِنْبَرِ يَقُولُ " وَأَعِدُّوا لَهُمْ مَا اسْتَطَعْتُمْ مِنْ قُوَّةٍ أَلاَ إِنَّ الْقُوَّةَ الرَّمْىُ أَلاَ إِنَّ الْقُوَّةَ الرَّمْىُ أَلاَ إِنَّ الْقُوَّةَ الرَّمْىُ "

訳：

ウクバ・ブン・アーミルは言った。私は、アッラーの使徒 ﷺ がミンバルの上でこう言われるのを聞いた。 ***「『かれらに対し、あなたがたの力の及ぶ限り武力を備えよ。』まことに力とは射ることである。まことに力とは射ることである。まことに力とは射ることである。」***

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ハールーン・ブン・マアルーフ ← アブドゥッラー・ブン・ワフブ ← アムル・ブン・アル＝ハーリス ← アブー・アリー・スマーマ・ブン・シュファイイ ← ウクバ・ブン・アーミル رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』統治の書、ハディース番号 1917。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に次いで最も真正なハディース集『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠： sunnah.com/muslim:1917

教訓

本当に備えのできた一人は、多くの人に匹敵する影響を与えることができます。備えの質、すなわち信仰と知識と技術は、数よりも大切です。

イラクの地でハーリドとともに

カアカーアは、ヒジュラ暦 12 年のイラクでの一連の戦いでハーリド・ブン・アル＝ワリードに従いました（第 3 巻：ハーリド・ブン・アル＝ワリードを参照）。

歴史の注：カーズィマからアンバールへ

最初の戦いは、ハーリドがペルシアの将軍ホルムズと対峙したカーズィマでの***ザート・アッ＝サラースィル***の戦いでした。ハーリドは一騎打ちでホルムズを倒し、ペルシア軍は敗れました。カアカーアはこの戦いと、それに続く***ヒーラ***、***アンバール***、***アイン・アッ＝タムル***の征服に加わりました。彼がハーリドの先鋒を率いたとする伝承もあります。

伝承の評価：伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した***サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー***を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（ヒジュラ暦 12 年の出来事）。

教訓

よい英雄は経験豊かな指揮官から学びます。カアカーアは「アッラーの剣」ハーリドから戦いの術を学びました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

砂漠を越えてヤルムークへ

ヒジュラ暦 13 年、アブー・バクルはハーリドに、軍の一部を率いてイラクからシャームのムスリム軍の支援に向かうよう命じました。ハーリドはスワーからシャームまで、ほとんど水のない砂漠を越え、カアカーアも彼とともにいました。イブン・アサーキルは、この旅についてのカアカーアの詩を記録しています。

歴史の注：ヤルムークの一部隊（クルドゥース）の長

ローマ軍との***ヤルムーク***の戦いで、ハーリドは軍を多くの*クルドゥース*（小部隊）に分けました。カアカーアはイラク軍の部隊の一つを任され、その日について詩を詠みました。

伝承の評価：伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した***サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー***を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

イブン・アサーキル『ダマスカス史』；タバリー『諸使徒と諸王の歴史』。

アッラーの使徒 ﷺ は、敵と向き合うムジャーヒドの作法を教えられました。

ハディース — サヒーフ・ブハーリー、No. 2966

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا مُعَاوِيَةُ بْنُ عَمْرٍو، حَدَّثَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، عَنْ مُوسَى بْنِ عُقْبَةَ، عَنْ سَالِمٍ أَبِي النَّضْرِ، مَوْلَى عُمَرَ بْنِ عُبَيْدِ اللَّهِ وَكَانَ كَاتِبًا لَهُ قَالَ كَتَبَ إِلَيْهِ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي أَوْفَى - رضى الله عنهما - فَقَرَأْتُهُ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي بَعْضِ أَيَّامِهِ الَّتِي لَقِيَ فِيهَا انْتَظَرَ حَتَّى مَالَتِ الشَّمْسُ. ثُمَّ قَامَ فِي النَّاسِ قَالَ " أَيُّهَا النَّاسُ، لاَ تَتَمَنَّوْا لِقَاءَ الْعَدُوِّ، وَسَلُوا اللَّهَ الْعَافِيَةَ، فَإِذَا لَقِيتُمُوهُمْ فَاصْبِرُوا، وَاعْلَمُوا أَنَّ الْجَنَّةَ تَحْتَ ظِلاَلِ السُّيُوفِ، ثُمَّ قَالَ اللَّهُمَّ مُنْزِلَ الْكِتَابِ وَمُجْرِيَ السَّحَابِ وَهَازِمَ الأَحْزَابِ، اهْزِمْهُمْ وَانْصُرْنَا عَلَيْهِمْ ".

訳：

サーリム・アブー・アン＝ナドルは言った。アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファーがウマル・ブン・ウバイドゥッラーに手紙を書き、私はそれを読んだ。アッラーの使徒 ﷺ は、敵と対峙したある日、太陽が南中を過ぎるまで待たれた。それから人々の中に立ってこう言われた。***「人々よ、敵との遭遇を望んではならない。アッラーに無事を願いなさい。だが彼らと遭遇したならば忍耐しなさい。そして楽園は剣の影の下にあることを知りなさい。」*** それから彼はこう祈られた。「啓典を下された方、雲を動かされる方、連合軍を打ち破られた方、アッラーよ、彼らを打ち破り、私たちに彼らに対する勝利をお与えください。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド・アル＝ムスナディー ← ムアーウィヤ・ブン・アムル ← アブー・イスハーク・アル＝ファザーリー ← ムーサー・ブン・ウクバ ← サーリム・アブー・アン＝ナドル ← アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、ハディース番号 2966。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:2966

戦利品章 8:45

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا لَقِيتُمۡ فِئَةً فَٱثۡبُتُواْ وَٱذۡكُرُواْ ٱللَّهَ كَثِيرًا لَّعَلَّكُمۡ تُفۡلِحُونَ ٤٥

あなたがた信仰する者よ，（敵の）軍勢と遭遇する時は堅固に持して，専らアッラーを唱念せよ。恐らくあなたがたは勝利を得るであろう。

訳：三田了一 — quran.com/8:45

教訓

信者は戦いを求めません。しかし戦いが訪れたときには、堅固に立ち、忍耐し、アッラーを多く念じます。

ダマスカスの城壁を登る

歴史の注：城壁に投げられた綱

ムスリム軍が***ダマスカス***を包囲したとき（ヒジュラ暦 14 年）、町の城壁は高く、水をたたえた堀に囲まれていました。ある夜、町の人々が祭りに気を取られている間に、ハーリド・ブン・アル＝ワリードはカアカーア・ブン・アムル、マズウール・ブン・アディーら数人とともに堀を渡り、城壁に綱を投げて登ったと伝えられます。彼らは町の中に降りて東門を開け、ついにダマスカスの人々は和平を求めました。

伝承の評価： 伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した***サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー***を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（ヒジュラ暦 14 年の出来事）。

ダマスカス征服についての他の伝承では、町の一部はアブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフによって和約で、一部はハーリドによって武力で開かれたとされています（第 4 巻を参照）。歴史家たちは細部について意見を異にしています。

教訓

計画と結びついた勇気は、閉ざされて見える道を開くことができます。小さくても勇敢なチームは状況を変えることができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イラクへの帰還 – 十人ずつの組で来た千騎

ヒジュラ暦15年（14年または16年とする説もあります）、*サアド・ブン・アビー・ワッカース*率いるムスリム軍は、イラクの*カーディスィーヤ*でルスタム率いるペルシアの大軍と対峙しました（第5巻：サアド・ブン・アビー・ワッカースを参照）。カリフのウマルはアブー・ウバイダに、イラクの軍をシャームから送り返すよう命じました。その軍を率いたのはハーシム・ブン・ウトバで、カアカーアはその先鋒を指揮しました。

歴史の注：途切れることのない砂ぼこり

カアカーアがカーディスィーヤに着いたのは、戦いの二日目、*アグワースの日*（救援の日）と呼ばれる日の朝でした。彼は千人の兵を十人ずつの組に分けました。一つの組が到着して見えなくなると、次の組が砂ぼこりを上げて現れるのです。ムスリム軍は喜んで「アッラーフ・アクバル」と叫び、ペルシア軍は途切れることのない大援軍が来ていると思い込みました。

伝承の評価：伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した*サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー*を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（カーディスィーヤの出来事）。

© 2026年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この作戦は、戦いについてのアッラーの使徒 ﷺ の言葉と一致しています。

ハディース — サヒーフ・ブハーリー、No. 3030

حَدَّثَنَا صَدَقَةُ بْنُ الْفَضْلِ، أَخْبَرَنَا ابْنُ عُيَيْنَةَ، عَنْ عَمْرٍو، سَمِعَ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم " الْحَرْبُ خُدْعَةٌ ".

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラーは言った。預言者 ﷺ はこう言われた。 ***「戦いとは策略である。」***

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：サダカ・ブン・アル＝ファドル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、「戦いは策略である」の章、ハディース番号 3030。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:3030

学者たちは、戦いにおける「策略」とは、交戦中の敵に対する戦術や計略を意味し、条約を破ったり信頼を裏切ったりすることではないと説明しています。裏切りはイスラームで禁じられているからです。

教訓

鋭い知恵は武器です。同じ人数でも、賢い配置は味方の士気を高め、敵の士気をくじくことができます。

アグワースの日 – 橋の戦いの雪辱

歴史の注：バフマン・ジャーズーヤ

戦場に着くと、カアカーアは「一騎打ちに出る者はいるか」と呼びかけました。その挑戦に応じたのは、ムスリムの指揮官アブー・ウバイド・アッ＝サカフィーが殉教した***橋の戦い***（ジスル、ヒジュラ暦13年）でムスリム軍を破ったペルシアの将軍、***バフマン・ジャーズーヤ***でした。カアカーアは「アブー・ウバイドと橋の人々の仇を討つ者たちよ」と叫び、彼と戦って倒しました。その日一日、彼は一騎打ちに出続け、何人ものペルシアの勇士を打ち負かしました。

伝承の評価：伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した***サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー***を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（カーディスィーヤの出来事）。

教訓

敗北は闘いの終わりではありません。堅忍なウンマは再び立ち上がり、忍耐とよりよい備えによって敗北を取り返すのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

覆面のラクダと白い象

ペルシア軍には、ムスリムの馬を怯えさせる象の部隊がありました。馬は象を見ると逃げ出し、ムスリムは初日に大きな困難に直面しました。

歴史の注：象に対する策略

アグワースの日、カアカーアと彼の一族は、ラクダに布や覆面をかぶせて奇妙で恐ろしい姿にしたと伝えられます。ペルシアの馬は驚いてラクダから逃げ出し、ペルシアの騎兵は混乱に陥りました。

三日目の*イマースの日*、サアド・ブン・アビー・ワッカースはカアカーアと兄弟アースィムに、群れを率いる最も大きな白い象に立ち向かうよう命じました。二人が槍で突くと象は目が見えなくなって倒れ、ほかの象たちは引き返してペルシア軍自身の隊列を踏みつけました。

伝承の評価： 伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した*サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー*を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（カーディスィーヤの出来事）。

教訓

考える人にとって、どの問題にも解決策があります。カアカーアはただ勇敢に突撃しただけでなく、敵の弱点を探したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハリールの夜とカーディスィーヤの勝利

歴史の注：「カアカーアのような者を見たことがない」

戦いは、武器の音と戦士たちの叫びがやむことがなかったため*ライラト・アル＝ハリール*（どよめきの夜）と呼ばれる一夜を通して続きました。ムスリムが疲れ果てたとき、カアカーアとタミーム族は前進してペルシア軍の中央を攻撃しました。サアド・ブン・アビー・ワッカースは後にこの行動を認めました。翌日ルスタムは討たれ、ペルシア軍は敗れました。

ウマルがサアドに、カーディスィーヤの日々で最も優れた騎士は誰かと尋ねたと伝えられます。サアドはこう書き送りました。*「カアカーア・ブン・アムルのような者を私は見たことがありません。彼は一日に三十回突撃し、そのたびに一人の勇士を打ち負かしました。」*

伝承の評価：伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した*サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー*を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』；イブン・アサーキル『ダマスカス史』。

カーディスィーヤの勝利は、イラクとペルシアの征服への道を開きました。イスラームの英雄たちは、勝利がアッラーから来ることを知っていました。

イムラーン家章 3:126

وَمَا جَعَلَهُ ٱللَّهُ إِلَّا بُشۡرَىٰ لَكُمۡ وَلِتَطۡمَئِنَّ قُلُوبُكُم بِهِۦۚ وَمَا ٱلنَّصۡرُ إِلَّا مِنۡ عِندِ ٱللَّهِ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡحَكِيمِ ١٢٦

アッラーは，只あなたがたの心の安らぎのために，吉報を伝えられた。偉力ならびなく英明であられるアッラーの御許からの外には，助けはないのである。

訳：三田了一 — quran.com/3:126

教訓

最も疲れ果てた瞬間の粘り強さが勝利を決めます。それでも信者は、勝利を自分ではなくアッラーに帰するのです。

私たちは何のために戦うのか

勇気の物語は、人々を名声や称賛のために戦うよう誘うことがあります。アッラーの使徒 ﷺ は、本当にアッラーの道で戦う者が誰なのかを明らかにされました。

ハディース — サヒーフ・ブハーリー、No. 2810

حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ عَمْرٍو، عَنْ أَبِي وَائِلٍ، عَنْ أَبِي مُوسَى ـ رضى الله عنه ـ قَالَ جَاءَ رَجُلٌ إِلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ الرَّجُلُ يُقَاتِلُ لِلْمَغْنَمِ، وَالرَّجُلُ يُقَاتِلُ لِلذِّكْرِ، وَالرَّجُلُ يُقَاتِلُ لِيُرَى مَكَانُهُ، فَمَنْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ قَالَ " مَنْ قَاتَلَ لِتَكُونَ كَلِمَةُ اللَّهِ هِيَ الْعُلْيَا فَهُوَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ ".

訳：

アブー・ムーサーは言った。ある男が預言者 ﷺ のもとに来てこう言った。「戦利品のために戦う男、名を挙げるために戦う男、自分の地位を見せるために戦う男がいます。誰がアッラーの道にあるのでしょうか。」彼は言われた。*「アッラーの御言葉が最も高くなるために戦う者、その者こそアッラーの道にある。」*

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：スライマーン・ブン・ハルブ ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージ ← アムル・ブン・ムッラ ← アブー・ワーイル・シャキーク・ブン・サラマ ← アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、ハディース番号 2810。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:2810

教訓

闘いの価値はその意図にあります。歴史におけるカアカーアの名声も、アッラーの御言葉を高めようとする意図がなければ、アッラーのもとでは何の意味もありません。私たちは、彼がその意図を持つ人々の一人であることを祈ります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マダーイン、ジャルーラー、フルワーン

歴史の注：ホスローの武具とフルワーンの総督

カーディスィーヤの後、ムスリム軍はペルシアの都 ***マダーイン***（クテシフォン）へ進み、ヒジュラ暦 16 年にこれを開きました。イブン・ハジャルは、カアカーアが戦利品としてホスロー（キスラー）の鎧を手に入れ、それをシャリーアに従って分配されるよう指揮官に引き渡したと述べています。

同じ年、ペルシア軍は ***ジャルーラー***に再び集結しました。ハーシム・ブン・ウトバ率いるムスリム軍が彼らを破り、カアカーアはペルシア軍の残兵をハーニキーンと ***フルワーン***まで追撃しました。その後サアド・ブン・アビー・ワッカースは、ペルシアの山々のふもとにある国境地帯フルワーンの長にカアカーアを任命しました。

伝承の評価： 伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した ***サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー***を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（ヒジュラ暦 16 年の出来事）；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』。

教訓

戦利品は預かりものであり、個人の所有物ではありません。信頼できる指揮官は、どれほど価値があろうとも、得たものを引き渡すのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ナハーワンド – 見せかけの退却

歴史の注：敵を砦から誘い出す

ヒジュラ暦21年、ペルシア軍は*ナハーワンド*に大軍で集結しました。ムスリム軍を率いたのは*ヌウマーン・ブン・ムカッリン*でした。ペルシア軍は砦と堀の後ろに身を隠し、出て来て戦おうとしませんでした。カアカーアは攻撃を始めた後、退却するふりをする役目を与えられたと伝えられます。ペルシア軍が彼を追って出て来ると、ムスリム軍は開けた場所で彼らを攻撃しました。ヌウマーンはこの戦いで殉教し、ナハーワンドの勝利は「*ファトフ・アル＝フトゥーフ*」（征服の中の征服）と呼ばれました。

伝承の評価：伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した*サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー*を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（ヒジュラ暦21年の出来事）。

教訓

作戦のために一時的に退くことは敗北ではありません。アッラーご自身が、戦術のために退く者を戦場から逃げることの禁止から除外されています（戦利品章8:16）。

© 2026年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ラクダの戦いの前の和平の使者

カリフ・ウスマーン・ブン・アッファーンが殺害された（ヒジュラ暦 35 年）後、ウスマーンの殺害者にどのように報いを求めるかをめぐって、カリフ・アリー・ブン・アビー・ターリブと、タルハ、アッ＝ズバイル、信者の母アーイシャとの間に意見の相違が生じました。ヒジュラ暦 36 年、両者はバスラの近くにいました。

歴史の注：「あなたがたは何を望むのか」

アリーはカアカーア・ブン・アムルをアーイシャ、タルハ、アッ＝ズバイルのもとへ遣わしたと伝えられます。カアカーアは彼らに、何のために来たのかを尋ねました。彼らは「イスラーフ（和解と改善）です」と答えました。カアカーアは、ウンマが分裂している中で報いを求めればさらに大きなフィトナを招くこと、そして正義を打ち立てる道は、まず平穏を取り戻すことだと説明しました。彼らは同意し、アリーもそれを聞いて喜びました。両陣営は和平が結ばれると確信して眠りにつきました。ところがその夜、ウスマーン殺害に関わった一団が、和平によって自分たちが罰せられることを恐れ、不意に戦いを始めたのです。こうして、どちらの側も望んでいなかったにもかかわらず、ラクダの戦いが起こりました。

伝承の評価： 伝承経路の面で弱い（ダイーフ）。この伝承は、イブン・ハジャルが「ハディースにおいては弱いが、歴史においては拠り所である」と評した***サイフ・ブン・ウマル・アッ＝ダッビー***を経由しています。歴史書ではよく知られた話ですが、真正なハディースのように典拠として用いることはできません。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（ヒジュラ暦 36 年の出来事）；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアカーアのこの努力は、アッラーの命令を実行するものでした。

部屋章 49:9

وَإِن طَآئِفَتَانِ مِنَ ٱلْمُؤْمِنِينَ ٱقْتَتَلُواْ فَأَصْلِحُواْ بَيْنَهُمَاۖ فَإِنۢ بَغَتْ إِحْدَىٰهُمَا عَلَى ٱلْأُخْرَىٰ فَقَٰتِلُواْ ٱلَّتِى تَبْغِى حَتَّىٰ تَفِىٓءَ إِلَىٰٓ أَمْرِ ٱللَّهِۚ فَإِن فَآءَتْ فَأَصْلِحُواْ بَيْنَهُمَا بِٱلْعَدْلِ وَأَقْسِطُوٓاْۖ إِنَّ ٱللَّهَ يُحِبُّ ٱلْمُقْسِطِينَ ۝٩

もしも信者が 2 つに分れて争えば，両者の間を調停しなさい。もしかれらの一方が他方に対して，（一方的に）無法なことをするならば，無法者がアッラーの命令に立ち返るまで戦いなさい。だがかれらが立ちかえったならば，正義と公平を旨としてかれらの間を調停しなさい。本当にアッラーは公正な者を愛される。

訳：三田了一 — quran.com/49:9

アッラーの使徒 ﷺ は、人々を和解させようと努める者を尊ばれました。

ハディース — サヒーフ・ブハーリー、No. 2692

حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا إِبْرَاهِيمُ بْنُ سَعْدٍ، عَنْ صَالِحٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، أَنَّ حُمَيْدَ بْنَ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، أَخْبَرَهُ أَنَّ أُمَّهُ أُمَّ كُلْثُومٍ بِنْتَ عُقْبَةَ أَخْبَرَتْهُ أَنَّهَا، سَمِعَتْ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ " لَيْسَ الْكَذَّابُ الَّذِي يُصْلِحُ بَيْنَ النَّاسِ، فَيَنْمِي خَيْرًا، أَوْ يَقُولُ خَيْرًا ".

訳：

フマイド・ブン・アブドゥッラフマーンは、母ウンム・クルスーム・ビント・ウクバが、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われるのを聞いたと伝えた。*「人々の間を和解させ、善いことを伝えたり善いことを言ったりする者は、嘘つきではない。」*

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥルアズィーズ・ブン・アブドゥッラー・アル＝ウワイスィー ← イブラーヒーム・ブン・サアド ← サーリフ・ブン・カイサーン ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← フマイド・ブン・アブドゥッラフマーン ← ウンム・クルスーム・ビント・ウクバ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』和解の書、ハディース番号 2692。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:2692

スンナとジャマーアの民は、これらの出来事に関わった教友たちは皆イジュティハード（努力による判断）を行ったのであり、私たちはそのいずれをも非難しないよう舌を慎むという立場をとります。

教訓

真の英雄は、戦いにおいて勇敢であるだけでなく、和平のために努めることにおいても勇敢です。ムスリム同士の流血を防ぐことは、大いなるジハードなのです。

クーファでの晩年

カアカーアは、カーディスィーヤの後にムスリム軍が築いた町*クーファ*に住みました。タバリーは、ヒジュラ暦 41 年にムアーウィヤが彼をクーファからイーリヤー（エルサレム）へ移したと述べています。亡くなった年と場所は確かには分かっていません。現代の著述家の中にはヒジュラ暦 40 年ごろとする人もいますが、古い典拠に基づくものではありません。

教友であれ後継世代であれ、カアカーアはこのウンマの最良の世代に生きました。アッラーの使徒 ﷺ はこう言われています。

ハディース ― サヒーフ・ブハーリー、No. 3651

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ كَثِيرٍ، أَخْبَرَنَا سُفْيَانُ، عَنْ مَنْصُورٍ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ، عَنْ عَبِيدَةَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ " خَيْرُ النَّاسِ قَرْنِي، ثُمَّ الَّذِينَ يَلُونَهُمْ، ثُمَّ الَّذِينَ يَلُونَهُمْ، ثُمَّ يَجِيءُ قَوْمٌ تَسْبِقُ شَهَادَةُ أَحَدِهِمْ يَمِينَهُ وَيَمِينُهُ شَهَادَتَهُ ".

訳：

アブドゥッラー・ブン・マスウードは、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えた。*「最良の人々は私の世代であり、次にそれに続く人々、次にそれに続く人々である。*その後、ある者の証言がその誓いに先立ち、誓いが証言に先立つような人々が現れるだろう。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・カスィール ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← マンスール・ブン・アル＝ムウタミル ← イブラーヒーム・アン＝ナハイー ← アビーダ・アッ＝サルマーニー ← アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、ハディース番号 3651。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

*典拠：*sunnah.com/bukhari:3651

教訓

戦場で殉教する英雄もいれば、長年の闘いの後に静かに世を去る英雄もいます。大切なのは誠実さであり、死に方や場所ではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアカーアの人柄と資質

歴史上の伝承によれば、カアカーアは次のような資質をもつ人物として描かれています。典拠の多くは弱いため、これらの資質は歴史的な人物像として示し、教訓は真正な根拠に基づかせています。

資質	物語からの例
勇気	カーディスィーヤで一日に三十回の突撃
作戦の巧みさ	十人ずつの組、覆面のラクダ
指導者への服従	ハーリド、アブー・ウバイダ、サアド、ヌウマーンのもとで戦った
誠実さ	ホスローの武具を戦利品として引き渡した
和平の人	アーイシャ、タルハ、アッ＝ズバイルへのアリーの使者
詩人	ジハードの出来事を詩に残した

教訓

完全な勇気とは、知恵と服従と和平への願いに導かれた勇気です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアカーアの物語の典拠

この表は、それぞれの話の典拠と評価をまとめたものです。読者が真正なものと、単によく知られているだけのものとを見分けられるようにしています。

話	典拠	評価
アッラーの使徒 ﷺ の逝去に立ち会う	サイフ・ブン・ウマル；イブン・アビー・ハーティム	弱い
「ジハードのために何を備えたか」	イブン・カーニウ（サイフ経由）	弱い
馬に結びつけられた善	サヒーフ・ブハーリー2852	サヒーフ
タミーム族への称賛	サヒーフ・ブハーリー2543	サヒーフ
「この軍は敗れない」	タバリー（サイフ経由）	弱い
「力とは射ることである」	サヒーフ・ムスリム 1917	サヒーフ
イラク、ヤルムーク、ダマスカス	タバリー；イブン・アサーキル	弱い（歴史）
「敵との遭遇を望んではならない」	サヒーフ・ブハーリー2966	サヒーフ
カーディスィーヤの日々	タバリー（サイフ経由）	弱い（歴史）
「戦いとは策略である」	サヒーフ・ブハーリー3030	サヒーフ
サアドの手紙：三十回の突撃	イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』	弱い（歴史）
戦いの意図	サヒーフ・ブハーリー2810	サヒーフ
マダーイン、ジャルーラー、ナハーワンド	タバリー（サイフ経由）	弱い（歴史）
ラクダの戦いの前の和平の使者	タバリー（サイフ経由）	弱い（歴史）
和解させる者は嘘つきではない	サヒーフ・ブハーリー2692	サヒーフ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

話	典拠	評価
最良の世代	サヒーフ・ブハーリー3651	サヒーフ

カアカーアの物語に登場する人物

人物	役割
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	彼をハーリドの援軍に送ったカリフ
ハーリド・ブン・アル＝ワリード	イラク、ヤルムーク、ダマスカスの指揮官（第 3 巻）
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	彼をカーディスィーヤに送ったカリフ
サアド・ブン・アビー・ワッカース	カーディスィーヤの指揮官（第 5 巻）
ハーシム・ブン・ウトバ	シャームからの救援軍とジャルーラーの指揮官
アースィム・ブン・アムル	兄弟。ともに白い象を倒した
バフマン・ジャーズーヤ	アグワースの日に彼が倒したペルシアの将軍
ヌウマーン・ブン・ムカッリン	ナハーワンドの指揮官、殉教
アリー・ブン・アビー・ターリブ	彼を和平のために遣わしたカリフ（第 2 巻）
サイフ・ブン・ウマル	彼の物語の主な歴史伝承者

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアカーアの物語に登場する場所

場所	出来事
ナジュド	タミーム族の故郷
カーズィマとヒーラ（イラク）	ハーリドとともに（ヒジュラ暦 12 年）
ヤルムーク（シャーム）	ローマ軍に対する部隊の長
ダマスカス	町の城壁を登る（ヒジュラ暦 14 年）
カーディスィーヤ（イラク）	アグワースとイマースの日、ハリールの夜（ヒジュラ暦 15 年）
マダーイン	ペルシアの都の征服（ヒジュラ暦 16 年）
ジャルーラーとフルワーン	ペルシア軍の追撃、フルワーンの長（ヒジュラ暦 16 年）
ナハーワンド	見せかけの退却（ヒジュラ暦 21 年）
バスラ	ラクダの戦いの前の和平の使者（ヒジュラ暦 36 年）
クーファ	彼が住んだ町

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアカーアの生涯の年表

年	出来事
ヒジュラ暦 9 年	タミーム族が使節団の年にイスラームに入る
ヒジュラ暦 12 年	アブー・バクルにより、イラクのハーリドの援軍として送られる
ヒジュラ暦 13 年	ハーリドとともに砂漠を越えてシャームへ
ヒジュラ暦 13〜15 年	ヤルムークの戦い、ダマスカス征服
ヒジュラ暦 15 年	カーディスィーヤの戦い（14 年または 16 年とする説もある）
ヒジュラ暦 16 年	マダーイン、ジャルーラー、フルワーン
ヒジュラ暦 21 年	ナハーワンドの戦い
ヒジュラ暦 36 年	ラクダの戦いの前の和平の使者
ヒジュラ暦 41 年	クーファからイーリヤーへ移される。没年は不明

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアカーアについてのよくある質問

この章では、カアカーア・ブン・アムル رضى الله عنه についてよく尋ねられる質問に答えます。答えは簡潔にしてあり、詳しくはこれまでの章にあります。

1. カアカーアの正式な名は？

タミーム族のカアカーア・ブン・アムル・ブン・マーリク・アッ＝タミーミーです。

2. カアカーアは教友ですか？

教友であったことは真正な伝承経路では確認されていません。より有力な見解は、彼が大後継世代の一人だというものです。

3. 彼の物語はなぜ弱いと評価されるのですか？

その多くが、ハディースにおいては弱いが歴史においては拠り所とされるサイフ・ブン・ウマルを経由して伝えられているからです。

4. アブー・バクルは彼について何と言いましたか？

「このような男がいる軍は敗れない」– サイフ経由の歴史上の伝承です。

5. アッラーの使徒ﷺはタミーム族について何と言われましたか？

「彼らは私のウンマの中で、ダッジャールに対して最も手強い者たちである」（サヒーフ・ブハーリー2543）。

6. アグワースの日のカアカーアの策略は？

千人の兵を十人ずつの組に分け、次々と到着させたことです。

7. バフマン・ジャーズーヤとは誰ですか？

橋の戦いのペルシアの将軍で、カーディスィーヤでカアカーアに倒されました。

8. ペルシアの象はどのように打ち破られましたか？

ペルシアの馬を怯えさせた覆面のラクダと、群れを率いる白い象を倒したことによってです。

9. サアドはウマルに彼について何と書きましたか？

一日に三十回突撃し、そのたびに一人の勇士を打ち負かしたと書きました。

10. ラクダの戦いの前のカアカーアの役割は？

アリーに遣わされ、アーイシャ、タルハ、アッ＝ズバイルとの和平に努めました。

11. カアカーアはいつ亡くなりましたか？

確かには分かっていません。ヒジュラ暦 41 年にはまだ存命でした。

12. 彼の物語から得られる最大の教訓は？

勇気は、知恵と誠実な意図、そしてウンマを和解させたいという願いに導かれなければならないということです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

カアカーア・ブン・アムル رضى الله عنه の物語は、ただ一人で援軍として送られた男から始まり、ムスリム同士の流血を防ごうと努めた和平の使者で終わります。

教訓	カアカーアの物語から
数より質	「この軍は敗れない」
力を備える	戦利品章 8:60、「力とは射ることである」
堅固に立ち、アッラーを念じる	戦利品章 8:45
知恵は武器	「戦いとは策略である」
誠実な意図	アッラーの御言葉が最も高くなるために
ウンマを和解させる	部屋章 49:9〜10
典拠についての誠実さ	真正なハディースと歴史上の伝承を見分ける

部屋章 49:10

إِنَّمَا ٱلْمُؤْمِنُونَ إِخْوَةٌ فَأَصْلِحُوا۟ بَيْنَ أَخَوَيْكُمْ ۚ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ لَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ

۱۰

信者たちは兄弟である。だからあなたがたは兄弟の間の融和を図り，アッラーを畏れなさい。必ずあなたがたは慈悲にあずかるのである。

訳：三田了一 — quran.com/49:10

私たちがカアカーアに倣うことができますように。最善の備えをし、試練のときには勇敢で賢明であり、意図において誠実で、信仰の兄弟たちを和解させるよう常に努める者となれますように。

イン・シャー・アッラー、『イスラームの英雄』シリーズは、また別のイスラームの英雄の物語へと続きます。

参考文献

クルアーンと注釈

聖クルアーン、ウスマーン版正書法と三田了一訳。quran.com

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（戦利品章 8:45、8:60；イムラーン家章 3:126；部屋章 49:9〜10）。

ハディース

サヒーフ・ブハーリー 2543、2692、2810、2852、2966、3030、3651。sunnah.com/bukhari

サヒーフ・ムスリム 1917。sunnah.com/muslim

イブン・カーニウ『教友事典』。

歴史書と伝記

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（ヒジュラ暦 12〜41 年の出来事）。

イブン・アサーキル『ダマスカス史』。

イブン・アビー・ハーティム『批判と信頼』。

イブン・アブドゥルバッル『アル＝イスティーアーブ』。

イブン・アル＝アスィール『ウスド・アル＝ガーバ』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『アル＝イサーバ』『タクリーブ・アッ＝タフズィーブ』。

IslamQA「カアカーア・ブン・アムル・アッ＝タミーミーの略伝」（No. 170087、アラビア語）。islamqa.info/ar/170087

QURANSCIENCE.MY の関連シリーズ

『イスラームの英雄』第 1 巻：ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブから第 12 巻：ムアーズ・ブン・ジャバルまで。特に第 3 巻：ハーリド・ブン・アル＝ワリードと第 5 巻：サアド・ブン・アビー・ワッカース。quranscience.my/#pahlawan

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه 。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه 。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。

海外からのご寄付：上の PayPal QR コードを読み取るか、こちらへ paypal.me/quranscience